

平成 22 年 3 月 19 日

各 位

日本農産工業株式会社

平成 22 年 4～6 月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 22 年 4～6 月期の畜産配合飼料価格につきまして、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 22 年 1～3 月期に比較して、全国全畜種総平均トン当たり約 500 円値下げすることを決定致しました。尚、改定額は、地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし 5 月限は ϕ 360～390/ブッシェルの推移となっています。

2 月以降、活発な商品相場の上昇傾向に支えられる面があり、とうもろこし相場は上昇傾向にありますが、南米の豊作予想等により、比較的狭い範囲での相場取引となっています。

今後は、米国中西部の積雪による春先の洪水の懸念等から、相場は下支えされる可能性があります。

2. 副原料（植物蛋白原料）

南米産大豆の豊作が予想されていることから、シカゴ定期大豆期近限月相場は下落傾向にあり、 ϕ 950/ブッシェル前後での取引となっています。

シカゴ定期大豆粕相場は、年明けは \$ 300/ショートトン以上の相場水準でしたが、シカゴ定期大豆相場と同様に下落傾向にあり、現在は \$ 270/ショートトン付近での取引となっています。このため、4～6 月期間渡し条件の国内大豆粕価格は 1～3 月比較では小幅の値下がりとなる見込みです。

3. 海上運賃

米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃価格は、一時 \$ 60/トン位まで下落しましたが、その後中国の好調な石炭輸入等により再び上昇に転じ、1～3 月期間と比較すると、日本向けとうもろこしプレミアム価格は小幅の上昇となっています。

4. 外国為替

米国の明確な景気回復の動きが見られない中、ドル円相場は年明け以降 88～92 円の比較的狭い範囲での取引となっています。